疋田哲也教諭に関する陳述書

■■■
住所：■■■■■■■■■■■■■■■■■■
職業：■■■■■■
略歴：■■■■■■■■■・■■■■■■■■■■　■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■　■■■■■■■■■■　■■■■■■■■■■■■■■■■■■

Ⅰ、疋田教諭との関係

昭和 56 年 4 月から昭和 60 年 3 月に亘る 4 年間練馬区立中村中学校において校長として疋田哲也教諭の指導監督にあたりました。

Ⅱ、当時の練馬区立中村中学校の教育環境の特質

（1）普通学級（身障学級からみると健常学級という）のほかに中度の精薄学級　訪問学級が併設されていました。

（2）昭和５６・５７・５８年度文部省、東京都・練馬区教育委員会の「体力つくり推進の指定を受けていました。

Ⅲ、疋田哲也教諭が果たした役割

（1）疋田哲也教諭は東京都の採用試験は理科として合格いたし、昭和 56 年 4 月に練馬区立中村中学校に着任いたしました。訪問学級担任となりました。訪問学級は病弱のため通学の出来ない子供のために家庭を訪問して学習指導を行います。当時の生徒は、進行性筋ジストロフィー、脳性麻痺、代謝不全症候群、心臓疾患などでした。疋田哲也教諭は死と直面した教育、生命尊重の原点の教育に熱心に取り組みました。このことに関連して、文部省、東京都・練馬区教育委員会指定、体力つくりの推進」の全国研究発表の研究誌（昭和 58 年 6 月 28 日発行）に掲載してある一部を紹介します。

★　障害をもつ生徒の「体力つくり」―訪問学級―

訪問学級の生徒は、通学の出来ない何らかの障害、特に身体的な障害をもっています。障害の種類や程度は一人ひとりちがっています。しかしかれらに共通しているのは自分だけで行動することは困難であることです。この生徒達ほど「体力」が欲しいと思っている者はいないでしょう。一般的にいって、これらの生徒達の「体力つくり」とは、現在もつている「体力」をこれ以上なくさない努力であります。病気の進行をできるだけくい止めることであります。今私達の学級には K 君がいます。彼は「進行性筋ジストロフイーデュシャン型」と呼ばれる病気をもっています。彼の筋肉のうち、彼自身で動かせるのは手首から先だけです。平常はひじかけつきの座椅子で、座位を持続させることがやっとのことで

あり、指先だけは動かせるのでこの筋肉が衰えないように留意します。また、坐りぱあなしのための呼吸困難を防ぐため、正しい呼吸法を身につけさせることに留意します。このことを踏まえて授業のときは次のようにしています。
① なるべく指を使わせる。作文、計算練習、漢字の書き取り、図画工作などなるべく字を多く書く機会をつくります。
②正しい呼吸法を身につける。英会話、朗読、唱歌など発声の機会を多くする。ホワイトボード（教室の黒板のかわり）を高い位置にし、見上げる姿勢でゆっくり発声させる。ハーモニカホルダーを用い（腕がつかえない）演奏させる。（ハーモニカは吸う、吹くの両動作があるので最適である。）
授業以外に彼に接するのは入浴の時です。体は人一倍大きく肥満しているので母親だけでは絶対にできないので担任２人が手伝います。水（お湯？）の中では無重力状態になるので彼は自分で動くことができます。そこで普段動かしていない（動かすことができない）「手」、「腕」、「脚」、「足」を自分の意志で動かしてもらいます。「ボクシング」は、ジャブ～ジャブ～フック、ジャブ～j ジャブ～ストレート、ジャブクロスを左右ワンセット行います。「水泳」はバックのバタ足をします。最後に「世界一周」と呼んでいる浴槽内一周（身障者用（2m×2m）を手すりにつかまりながら移動します。勿論、誰かが支えていなくてはなりません。彼は一生懸命やります。しかしこのことで彼の状態がよくなることはまったくありません。けれども彼は一生懸命やります。ただ自分の，体力をなくさないよう、筋力がまったくなくなる（心臓の停止）日が少しでも遅く来るよう努力しているのです。私達担任は彼の生命がけの努力に少しでも役立つようお手伝いするだけです。

（2）疋田哲也教諭は昭和 58 年４月から普通学級（健常学級）の担当となり理科の学習指導、普通学級担任となりました。熱意をもって授業を行い、学級経営に取り組みました。特に問題行動のある生徒に対しきめの細かい行き届いた指導を行いました。その実践報告の一例を次にあげます。
★問題行動のある生徒への取り組み
B 君のこと　疋田哲也
B 君は野球が大好きです。B 君のお父さんも野球が好きです。お父さんはお酒を飲んで帰ってくると。「お前将来何になってもかまわない。だけど野球だけは続けろよ」と口癖のように言います。B 君も 1 年生の作文に「僕は将来、どんなに弱くてもいいから野球部のある学校に行きたい」と書きました。B 君のお母さんは趣味をたくさん持っています。そのための費用を稼ぐためにパートに出ています。幼稚園の時から B 君は鍵っ子でした。でも、少年野球に入っているから寂しくありません。中学２年生になると B 君は野球部のキャップテンとなりました。次の作文は B 君が２年生になったときの作文です。
「２年生になりやったと思った。と同時に、何か目的をもたなくてはならない。どんな２年生になるのか、これは難しい問題だ。まず、第一に、自分たちがやられていやだったこ

とを１年生にやりかえさないこと。第２に、１年生に会ったら自分から挨拶をする。第 3 に、クラブの仕事を全部１年生に押し付けない。第 4 に、後半から３年生は受験のため生徒会活動から抜ける。2 年生の僕等が生徒会などでリーダーシップを摂らなくてはならない。これが一番難しい。頑張らなくてはならない。とにかく何事も積極的に取り組まなくてはならない」。ところが 2 年の終わり作文には次のようなことを書きました。「中学校生活で一番楽しい、行事の多い２年の学年がそろそろ終わると思うとあとは３年生になる。待っているのは受験といういまいましい戦いがある。そして、ただ 1 つの楽しみであるクラブ活動は夏休みの前に終ってしまうと思うとやはり受験地獄しかないのだ」。そして、とうとう２年生にクラブ活動の中心を引き渡すときがきてしまいました。今までは、クラブ活動のために帰るのが遅かったのであまり気にしていなかったのですが、夕方帰って午後１０時頃までひとりぼっちになるのはすごく寂しく感じてきました。こんな時に、友達が夜公園に集っているのを知り誘われました。どうせ家に帰ってもひとりぼっちだと思い、友達と夜遊びをするようになりました。よくないと思いながらも、タバコを吸いました。みんなといると気がまぎれて楽しい気持ちになりました。ところが、他の学校の生徒と喧嘩をすることになってしまいました。学校のトイレでタバコを吸っているところを先生に見つかってしまいました。担任の先生は「タバコを吸ったことは君自身の問題だから自分で解決しなさい。まず、自分からお父さんに打ちあけるんだ。それができないときは先生が何とかしてやる。」といいました。けれども、結局は自分の口から言えなくなって、担任の先生が家に来ることになりました。夜の 11 時頃、やっと両親がそろいました。お父さんは少しアルコールが入っているようです。担任の先生が一通り説明すると、お父さんは B 君にタバコの箱とライターを B 君に投げつけ怒鳴りました。「パアパアの前で吸ってみろ、パアパアはいつもタバコを吸うなといっているだろう。」B 君も怒鳴りました。「先生の前だからってなんだよ。そんなこと聞いたことないよ」。しばらく沈黙が続きました。お母さんがいいわけを始めました。それをさえぎるかのように先生が言いました。「この際だからいいたいことを言ってしまえよ」。少したって B 君がポンポン言いました。「ママに夕食を作って欲しいんだ。パパにも早く帰って欲しいんだ。それに」。B 君の声は涙声でした。聞いているお父さんも泣いていました。「こいつがこんなグチをこぼすのは初めてなんです。先生どうしたらよいでしょうか」。先生が言いました。「お前は一生野球をやっていくんだろう。たかが受験くらいでなぜひとやすみするんだ。３年生はもう引退だって、冗談じゃない。試合に出られなくても体を動かしていなくては。1・２年生と一緒に動いてコーチをしてみろ」。

次の日から B 君は野球の練習に参加し、試合にもついていきました。あの日以来、お父さんが前より少し早く帰るようになりました。日曜日のキャッチボールも復活しました。男同士の話もできるようになりました。

（3）その他、疋田哲也教諭は昭和 56 年度・58 年度は訪問学級担当でしたが自発的に普通

学級（健常学級）のクラブ活動（運動クラブ：テニス、文化クラブ：軽音楽）の顧問として指導にあたりました。また、練馬区の夏期施設、下田で実施いたしました臨海学園の指導員といたし協力いたしております。

Ⅳ、生命尊重と信頼

疋田哲也教諭は新規採用教員として恵まれた教育環境の中で育ったといえます。教育の原点である人間尊重（生命尊重）の教育の実践を身につけました。当時の先輩教諭は教頭、指導主事、校長と輩出、中には東京都中学校校長会長、（■■■■■）全日本中学校長会会長（■■■■）がいます。これらの先輩から教職の在りかたについて厳しく指導を受けています。また、文部省、東京都・練馬区教育委員会の体力つくり指定校でありました関係で当時の、東京都教育委員会主任指導主事（■■先生・■■先生）指導主事（■■先生）練馬区教育委員会指導主事（■■先生）国立教育委員会（■■先生）の指導を受けています。このようなことから疋田哲也教諭は中村中４年において教職教養の基礎つくりがなされ、このことを土台に移動先の職場で実積をあげてきたと信頼します。教育は信頼の絆で支えられます。信頼とは無限の肯定です。人は時に過ちを犯すものです。過ちは補うことができるものです。